

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

記述式(16)、選択式(25)、論述式(2問/200字以内・30字以内)

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数は昨年度と同じ全4題。解答数は43で、昨年度から3増えた。昨年度に比べ、記述式の設問は同数で、選択式の設問が3増えた。論述式問題の出題数は昨年度と同じであり、200字以内と30字以内の2問であった。出題の特徴や昨年との変更点

ここ数年は、記述式問題に比べて選択式問題が多く、また、200字程度の論述問題が出題されている。

その他トピックス

需要曲線・供給曲線の形状と弾力性の関係など経済に関する掘り下げた理解を試す問題が出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 選択	【政治分野】 日本国憲法の人身の自由	近代立憲主義と日本国憲法の人身の自由に関する知識を問う設問を中心とした構成。全体的に基本事項が問われている。問2と問5は正解の選択肢について判断に迷うところがあるが、消去法によって正解を選ぶことができる。問7は死刑制度に関するやや細かい知識が問われている。	やや易
II	記述 選択 論述	【政治分野】 内閣と行政	内閣と行政に関する知識を問う設問を中心とした構成。全体的に基本事項が問われている。問6は大日本帝国憲法と日本国憲法の違いについての理解が問われており、論述に困難はない。問7はデジタル庁が内閣府ではなく内閣に置かれているというやや細かい知識が問われている。	やや易
III	記述 選択 論述	【経済分野】 市場経済	市場経済と国民経済に関する知識を問う設問を中心とした構成。問2はウの判断に迷うかもしれない。問3は機会費用についての正確な理解が必要である。問5は平均ではなく中央値であることを指摘できているかがポイントである。問7は弾力性が無限大の場合には曲線は水平、ゼロの場合には曲線は垂直になることが理解できているかがポイントである。	標準
IV	記述 選択	【経済分野】 気候変動問題	気候変動問題に関する知識を問う設問を中心とした構成。全体的に基本事項が問われている。問7は「二国間クレジット(JCM)」「二酸化炭素を回収して地下に貯留する技術(CCS)」「国境炭素調整措置(CBAM)」など細かい知識が問われている。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

近年の出題は基本事項が中心になっている。したがって、教科書や用語集の重要事項をすべて押さえておく必要がある。また、経済分野の応用問題に対応できるようにするためには、丸暗記ではなく理解を踏まえた知識の整理が必要である。さらに、本学部では、政治・経済に関する時事問題も出題されるので、日頃から新聞やテレビのニュースについて興味を持ち、知識を整理し理解を深めておこう。なお、100字から200字程度の論述問題が出題されるので、他学部や他大学で出題された論述問題を解くなどして、解き方を身に付けておこう。